

非核の政府を 求める大阪の会

非核の政府を求める大阪の会 中西 裕人
〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
URL・http://homepage3.nifty.com/hikakuosaka/
E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
hikaku-osaka1986@nifty.com

第157号 2013年9月1日

ニュース

2015年NPT再検討会議において “核兵器のない世界”の実現を ～世論と運動を強化しよう～



△大阪の青年（辰己孝太郎参議院議員を含む）が元気な決意表明を行った長崎大会

日本政府が、核兵器の非人道性を訴えた各国共同声明を拒んだことに対し、「被爆国としての原点に返れ」と訴えた長崎市長、今年の世界大会は「核兵器廃絶は人類の生死をかけた死活的課題」であり、世論をつくるキ

ーワードは「核兵器使用の人的影響」で署名行動を線から面へ広げよう、との行動提起。世界各地と日本国内から七千人を超える参加者で閉会した二〇一三年原水爆禁止世界大会（長崎）は、多くの感動と教訓をもたらし、二〇一五年に向けて国内外の圧倒的な世論を

作り出すことを誓い合っていました。世界大会参加の「非核の政府を求める会」の各県代表は、大会初日に各県交流会を行い、増田善信世話人から「非核



△非核の会の献花

の会」の誕生のいきさつと果たすべき役割について詳しい報告がありました。二日目の早朝には原爆投下中心碑に献花を独自に行い、分科会・全体集會に臨みました。各県の活動報告やパフォーマンスでは大阪の青年たちの決意に会場は大きく盛り上がりました。閉会総会でオリバー・ストーン監督は、「原爆投下は、米軍が日本本土に上陸せず日本を降伏させ、五〇万人の米兵とそれをはるかに上回る日本人の命を救った」というのは神話であり、「原爆投下は正しかった」と世界を信じ込ませて

きた、と「もうひとつのアメリカ史」というドキュメンタリー映画と本で告発している、と報告しました。なお、大阪からは三七〇人をこえる代表団が長崎での開会総会、分科会、閉会総会などに参加し、大会成功に大きく貢献しました。



長崎平和公園の平和祈念像

参加者の特徴は、初参加者五割、二〇歳代が最大参加者世代で約一〇〇名でした。若い青年層が非核・平和運動の中心的な役割をはたし、全国を励ましました。

- 【非核五項目】
- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争阻止、核兵器廃絶の実現を求める。
 - ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
 - ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を防止する。
 - ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
 - ⑤ 原水爆禁止世界大会の、これまで以上の合意にもとづいて国際連帯を強化する。

～原水爆禁止 2013年世界大会・オリバー・ストーン語る～

原爆投下の正当化を許す歴史の歪曲は許されない!

オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史」が上映され、午後から待望の監督とピーター・カズニック教授との交流が始まった。会場からの質問に答えて監督は「娘の教科書を見たのがきっかけであった」と話され、

今年の原水爆禁止世界大会で注目をあびたのが、米国映画監督オリバー・ストーンに参加した。監督の話をもじり聞ける二日目の「映像の分科会」は超満員でした。午前中にNHKB放送の「世界のドキュメンタリー」



分科会で語るオリバー・ストーン監督

を最終させるのに原爆の使用は不要であったこと、対ソの冷戦が原爆使用の目的であったことを、米国側から実証しています。日本の歴史家はすでに一九八五年に荒井信一氏が

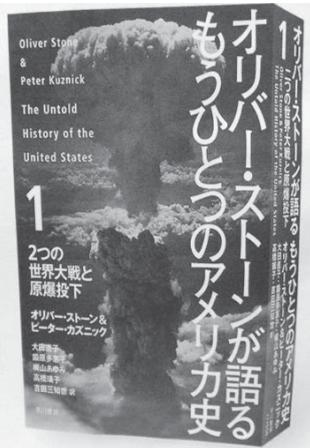
広島・長崎への原爆投下を正当化し、それで日本が終戦を決意し、世界に平和をもたらしたとの記載に正しい歴史が必要だと感じ、五年の歳月をかけて「The Untold History of The United States」三部作と「もうひとつのアメリカ史」ドキュメンタリー映画を完成させたことである。戦争を終結させるのに

『原爆投下への道』（東大出版会）でその説を紹介されています。会場からの質問にさらには答えて日本語訳の「もうひとつアメリカ史」より「語られなかったアメリカ史」の方がより適切だとの意見も表明されていた。そのことは、閉会総会での特別企画のステージでも「若い世代には、たとえ本当に残酷でむごいものであっても、真実を伝えるべきだ。今は歴史の真実の部分が取り除かれ、「浄化」したようなものを教えている」と指摘されていた。

日本の社会でも多数の人が「日本終戦は広島・長崎の原爆投下によるもの」との歴史認識をしているのではな

いでしょうか。また、アジアの地域でも同様です。シンガポールのセントーサ島にある「シンロ砦」戦争博物館での展示（当会十三年一月号）に象徴されています。原爆投下を正当化させるための歴史の歪曲を注意してお

最近、右翼的潮流の政治家たちが、「侵略の定義はない」「ナチスの手法を学んで憲法改正を」「従軍慰安婦など間違った歴史認識を振りかざして自分たちの立場を正当しようとの言動が目立っています。そうした時期に米国人のオリバー・ストーン監督の世界大会への参加とそのメッセージは私たちに運動の確信と展望を認識させるうえで重要なものでした。



オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史

→邦訳されたピーター・カズニック教授との共著

雅博
団事務局次長・北野



大阪にも原爆投下の史跡がある

当会が「非核・平和のデータブックⅢ」やニュースなどでくり返し紹介し、「戦争の傷あと・銘板めぐり」でも訪問した東住吉区田辺の「模擬原爆」投下慰霊碑前で、「七・二六田辺模擬原爆追悼実行委員会」主催の恒例の「追悼のつどい」が六八年前の投下時刻にあわせて開かれました。模擬原爆は長崎に投下されたプルトニウム型原子爆弾と同じ形・重量で作られ、プルトニウムの代わりに約5トンの普通の火薬が充填された巨大のもので、米軍は本物の原爆の投下訓練のため、五〇発の模擬爆弾を作り日本各地に投下したのです。「つどい」では、当



決意を読み上げる中学生

日、投下を目撃した住民の証言や、爆発直後の生々しい様子、広島原爆被爆者、大阪空襲犠牲者、福島原発の影響をうけ田辺で避難生活をされている方などの訴えがあり、関係者、田辺中・東住吉中・阿倍野中・泉野市立佐野中・長吉西中・我孫子中の各中学生多数が参列しました。中学生の参加が毎年広がっていること、この一年間に長崎から修学旅行で中学生が田辺の慰霊碑見学に訪れたことなどが報告されました。地域の新婦人の会員、大阪原水協、非核大阪の会の関係者も参列しました。

(マスコミの報道もありました)

橋下維新の会が「施設の劣化」を理由に「ピースおおさか」の变质を狙って展示内容を大幅に変えようとしています。22年前の「設立理念」を反映させようと 20 数団体が実行委員会をつくって府民・市民の声を集約し当局に提出します。以下、当会のこれまでの要請内容をまとめたものです。

「広島・長崎の原爆の火」を燃やし続ける施設を設置してください。
大阪に落とされた模擬原爆に関する事実と展示を要望します。

「広島・長崎の原爆の火」を燃やし続ける施設を設置してください

理由1 原爆投下から 68 年経ってなお大阪には 6692 人の被爆者が住んでおられ（2013 年 5 月、大阪府調査）高齢化が進んでいます。一方世界の核兵器は、少なくなったとはいえ 19000 発（2013SIPRI 年鑑）を数え、一旦使用されれば人類絶滅に有り余るほどの威力を有しており、ピキニ水爆の犠牲となったマグロ漁船を含め、三度の核兵器の犠牲を受けた日本人にとって「非核三原則」に則り、世界に核兵器の悲惨な犠牲の実情を発信することは私たちの責務だと思います。

高齢化する被爆者にとって地元大阪に、原爆の犠牲者を追悼し、平和を祈念できる施設があることは大きな心の支えになり、またそのことを多くの被爆者は願っておられます。

理由2 「原爆の火」（または平和の火）の常時点灯施設は、全国に少なくとも 30 か所（地方では、奈良市の般若寺、地方自治体としては東京都港区など。大阪では東大阪市）近くあり、建設費も維持費もさほど高額ではありません。

大阪に落とされた模擬原爆に関する事実と展示を要望します

理由1 1945 年 7 月、東住吉区田辺に模擬原爆が投下されたことが判明したのは、「ピースおおさか」が設置されたあとでした。原爆製造に成功したアメリカは実戦での投下を前にして 50 発の模擬爆弾（中身がウラン・プルトニウムでなく TNT 火薬）を作り日本全国で投下訓練を行い、そのうちの一発が大阪に落とされたのです。現展示中の一トン爆弾の五倍もある爆弾でした。

理由2 この事実を最初に発見したのは、愛知県の NGO でしたが、米軍文書を翻訳し、大阪での投下場所を特定したのは「ピースおおさか」設立当時からの方者である小山仁示関大名誉教授です。

理由3 田辺小学校近くの投下地点には犠牲になった遺族などの手で慰霊碑が建てられ、毎年、投下された 7 月 26 日に地元の方の協力で慰霊祭が行われています。

2013 年 7 月 9 日 非核の政府を求める大阪の会 常任世話人 長尾正典

「松本清張記念館」がなぜ？平和博物館とお思いの方もいらっしゃるであろう。記念館の展示は、「展示室1 松本清張の世界 多岐にわたる創作活動の全貌 紹介」と「展示室2 思索と創作の城」が常設展示である。筆者が注目したのは、「展示室1」の「推理劇場」で



平和博物館を訪ねて No.10
九州・小倉北九州市立 松本清張記念館

ある。現代史ノンフィクションの代表作「日本の黒い霧」を題材に、貴重な資料フィルムや写真などで構成されたオリジナルドキュメンタリー映像「日本の黒い霧―遙かな照射」である。八〇分の長時間の鑑賞であるが、戦後史の謎の解明にむけた松本清張氏の情熱が伝わってくるものである。松本清張ファンならずとも是非とも一見の価値がある映像である。その構成は「①日本の敗戦と松本清張の戦後」、②「帝銀事件」、③「下山事件」、④「松川事件」、⑤「黒地の絵」である。

とくにここで特記したいのは、⑤「黒地の絵」である。松本清張氏が住んでいた小倉での米軍占領下で発生した黒人兵集団脱走を扱った小説「黒地の絵」は、朝鮮戦争さなか、基地小倉で発生した事件を描いた作品である。映像は被害者の女性、当時の警察官であった証人の証言など生々しい実態を紹介する。現在の沖縄で起こっている諸問題が、基地小倉の地で起こっていた事実、独立をしたとはいえない米軍の支配下にあるなかで、事件報道がほとんどなされない（松本清張氏は当時朝日新聞西部本社広告部の臨時雇い）状況であったことなどを紹介する。鑑賞して感じたことは、基地があるかぎり、二十一世紀になっても現在も五〇年代とかわらない日本の姿を垣間見たというものである。橋下徹日本維新の会代表は、朝鮮戦争時にも「慰安婦制度」があったことを発言し、女性団体をはじめ多くの団体から抗議の声があがっていたのは記憶に新しい。諸悪の根源の基地撤去を求めず、女性の尊厳を冒瀆するような人物に政治を語る資格はないと、改めて感じた。（K・M）
場所・JR小倉駅徒歩二〇分小倉城内
料金・一般五〇〇円
休館日・年末のみ

募集中

非核の会の意見広告ポスター

今年の意見広告ポスターは、核兵器も原発もない世界への国民的共同を大きくする世論喚起に役立てたいと思います。(切り絵作家の故加藤義明さんに作成いただいた当会のロゴマークを使用しています。メインテーマ、サブテーマ、デザインは右記の通りです。)

ご協力・ご賛同を戴きますよう、よろしくお願いたします。

※団体1口3000円、個人1口1000円

※第1次締切：9月末日、最終締切：10月15日

※申込み、問い合わせは当会まで

TEL:06-6765-3032 FAX:06-6765-3033



九州電力の原子力発

見聞記シリーズ
見聞記

「玄海」原子力発電所 「エネパーク」

原発ゼロをめざして

電所は、運転開始一九八四年の薩摩川内原発より一〇年早く運転開始した玄海原発は、佐賀県の東松浦半島の西部に位置する玄海町にある。その東部には、豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄・慶長の役)の後方支援基地になった名護屋城跡がある。レンタカーを借りて見学した。(唐津からバスで四〇分)玄海原発前には、厳重な警備体制がしかれていた。その横にオープンな「玄海エネルギーパーク」が広大な敷地のなかに立っていた。二〇〇〇年に設立されて、「玄海PRセンター」、「サイエンス館」を中心に鑑賞用温室や広場などが隣接している。



左に玄海原発原子炉、右に民間企業の風力発電

「サイエンス館」の真ん中に設置されており、それを四階フロアからみながら下のフロアに降りながらの説明であった。その説明は、福島原発事故を意識した説明になっていた。とくに玄海原発は、「加圧水型原子炉」で、福島のような放射性物質をタービン建屋を遮蔽する必要がなく、一次冷却系に閉じ込めることができるので汚染されにくいことをやたら強調していた。また、過去の原発事故の展示コーナーももうけて、同じような説明を繰り返されていた。見学者の

質問がその点に集中されているのであろうと推測できるものであった。もう一点、強調していたのは、日本初の「プルサーマル発電」を實施してきたとのこと。使用済核燃料の管理は数万年単位だが、プルサーマル発電にすると長期保管を大幅に削減できることを説明していた。現在は、四号機まであるがすべて休止しており、九州電力は安全対策を万全にして再稼働にむけて努力しています、と最後に案内係はにこやかに説明していたのが、印象的であった。

玄海の手を見渡すと原発の横に風力発電が林立していた。案内係に聞くと民間企業が風力発電のために設置したそうである。過去から未来への情景を垣間見た思いをして、名護屋城跡に向かった。(K)

*玄海原発及びエネルギーパークの入場料は無料です。